

熱中対象と外的没入傾向の関連性

岩本 絵里

宮城学院女子大学人文科学研究科

人は、ある 1 つの対象に向けた注意を持続し、熱中することがある。本研究は、熱中する対象によってパーソナリティが異なるのではないかという仮説をもとに、「熱中」ということに関係がありそうな没入尺度(坂本,1997)と認知熟慮性 - 衝動性尺度(滝間・坂元,1991)を使い、その関係を検討した。

■方法

宮城学院女子大学の学生 84 人に質問紙調査を実施した。質問紙の内容は、

- 1.いくつかの熱中対象を、自分を高めること(例:資格の取得、英会話等) 何かを作ること(例:料理、プラモデル、絵を描く等) 何かを集めること(例:切手、キャラクターグッズの収集等) スポーツをすること(例:スノーボード、バイク等) ギャンブル(例:パチンコ、競馬等) 文芸、芸術に関すること(例:映画鑑賞、読書、音楽鑑賞等) 何かを強く信じること(例:宗教等) の 7 項目に分類し、「生活している中でそれらのことをどれくらい考えているか」について 5 段階で評定した。
- 2.没入尺度(外的没入、自己没入)と認知熟慮性 - 衝動性尺度を用いて、それぞれ「あてはまる程度について」5 段階で評定した。(合計 29 項目)

■結果と考察

表 1 : 単相関係数

	自分を高めること	何かを作ること	何かを集めること	スポーツをすること	ギャンブル	文芸、芸術に関すること	何かを強く信じること	認知合計	外的合計	自己合計
自分を高めること	0.01	0.11	0.00	0.06	-0.03	0.18	0.19	0.48**	0.23*	
何かを作ること		0.36**	0.15	0.17	0.19	-0.10	0.13	0.22**	0.08	
何かを集めること			0.16	0.35**	0.23*	0.06	0.15	0.33**	0.34**	
スポーツをすること				0.12	-0.02	-0.02	-0.17	0.07	-0.07	
ギャンブル					0.03	0.07	-0.02	0.15	0.16	
文芸、芸術に関すること						0.00	0.15	0.18	0.10	
何かを強く信じること							0.22*	0.11	0.22*	
認知合計								0.27*	0.29*	
外的合計										0.34**
自己合計										

** 相関係数は 1% 水準で有意

* 相関係数は 5% 水準で有意

<熱中対象間の相関について>

「何かを集めること」と、「何かを作ること」、「ギャンブル」、「文芸や芸術に関すること」とに有意な相関が認められた。その理由としては、「集める」と「作る」は、先の結果が明確になっていることが共通しているためであり、「集める」と「ギャンブル」は、得られずにいたものを得たときの満足感が共通しているためであ

り、「集める」と「文芸に関すること」は、継続することによって蓄積される知識や物による満足感が共通しているということが考えられる。

<尺度間の相関について>

認知熟慮性と自己没入および外的没入の相関が大きいことが示された。よって、没入尺度と認知熟慮性 - 衝動性尺度は類似度の高い尺度であることが示唆された。

<熱中対象とパーソナリティ>

(1)外的・自己没入傾向ともに有意な相関が認められたのは、「何かを集める」と「自分を高める」であった。「集める」ことは、外的な対象と自己との両方への関心が高いパーソナリティと関連していると考えられる。自己没入の対象の「高める」ことが外的没入と相関がみられたのは、「習い事」的な例を挙げたことが影響されたのではないかと考えられる。

(2)外的没入のみと有意な相関が認められたのは、「何かを作る」であった。「作る」ことは、外的な対象へ没入しやすいパーソナリティと関連があると考えられる。

(3)認知熟慮性と自己没入と有意な相関が認められたのは、「信じること」で、7 項目中で唯一認知熟慮性との相関が認められた。熟慮性が高く、自己へ没入するパーソナリティは、他者からの批判を遠ざける可能性があり、宗教などへのめり込むパーソナリティではないかと考えられる。

(4)全ての尺度と無相関だったのは、「スポーツをすること」、「ギャンブル」、「文芸・芸術に関すること」であった。今回設定した熟慮性、没入性とは関係低い対象だということが言える。

■まとめ

熱中対象の違いによって、パーソナリティが異なることが示された。相関が認められなかった熱中対象に関しては、他の何に関係しているのかを検討していくのが今後の課題となる。また、本研究で設定した 7 項目の熱中対象が網羅的なものかどうかの検討も必要である。

■引用文献

坂本真士 1997 自己注目と抑うつ社会心理学 東京大学出版会

滝間一嘉・坂元章 1991 認知熟慮性 - 衝動性尺度の作成—信頼性と妥当性の検討 日本ダイナミクス学会第 39 回大会発表論集、39-40.